

平成19年度 学校自己評価シート (埼玉県立上尾橋高等学校)

目指す学校像 (ミッション)	地域に根ざし、生徒一人ひとりを伸ばし、社会に貢献できる人材を育成する		
本年度の重点目標	1 基本的な生活習慣を確立し、規律意識を高める。	2 基礎学力の向上を図り、生徒の資質・能力を高める。	
	3 進路指導の充実により、生徒の自己実現を図る。	4 地域に根ざし、信頼される開かれた学校づくりを進める。	

番号	評価項目	年 度 当 初		最 終 評 価 (2月)		
		現 状	具体的な方策	経過・達成状況等	達成度	次年度の課題と改善策
1	規律意識の向上 ○遅刻欠席等の防止 ○あいさつの励行 ○清掃活動の徹底 ○部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・規律の守れない生徒がいる。 ・基本的な生活習慣が身に付いていない生徒が多い。そのため、身だしなみや遅刻、欠席等にルーズな面が多く見られる。 ・挨拶や清掃活動に積極的に関われない生徒がいる。 ・言葉遣いや振る舞いに適切さを欠く生徒がいる。 ・人間関係づくりが苦手な生徒がいる。 ・生徒の部活加入率が低く、部活動が停滞している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻記録カードを遅刻常習者の早期把握や家庭への連絡資料として活用する。 ・遅刻防止週間等を活用し、遅刻防止の徹底を図る。 ・より効果的な遅刻防止指導の検討を進める。 ・学年と連携して、日常的に身だしなみの注意を喚起すると共に、校門指導等を実施し、身だしなみの改善を図る。 ・教職員から生徒への声掛けを積極的に行い、挨拶を励行する。 ・清掃点検の結果を活用し、清掃のできる生徒の育成を図る。 ・環境整備委員会で定期的に校内巡回をし、生徒の意識を高める。 ・顧問が部員とのコミュニケーションを密にし、部員の把握に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻欠席等の延べ人数(率)が前年度より減少する。(年間出欠統計) ・頭髪服装規程を守る生徒が前年度より増加する。(最終評価時の違反人数) ・ほとんどの生徒が挨拶をできるようにする。(学校評価アンケート) ・清掃点検表が全て○になる(最終評価時) ・部活動に積極的に参加する生徒が前年度より増える。(部活動部員数調査) 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻入室カードの様式変更により、遅刻履歴の把握や遅刻指導がしやすくなった。 ・遅刻率は減少、欠席率は増加し、遅刻率と欠席率の合計は減少した。特に、遅刻特別指導対象者は前年度比35%減少した。 ・頭髪、服装ともに目立った違反は減少し、注意を受ける生徒が少なくなっている。 ・学校評価アンケートで「自分から進んで挨拶する」と回答した生徒は68%であった。 ・清掃点検表が全て○になることはなかったが、環境整備委員会(生徒)の定期的な校内巡回が行われるようになるなど、環境美化の取組が進んだ。 ・部活動に参加する生徒数は前年度より減少したが、全国大会連続出場や県大会初出場を果たした部活動もある。 	[B] <ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携強化など、遅刻常習者に対する指導を工夫する。(生徒の出欠状況の家庭への連絡を密にする。従来の遅刻防止週間の他に、遅刻累計回数に応じた特別指導を行うなど) ・「フレッシュ高校生社会体験活動プログラム」を活用し、規律意識の向上を図る。 ・非行防止教室、交通安全教室などを年度の早い時期に実施する。 ・環境整備委員会の定期的な校内巡回を継続するとともに、点検結果の活用法を工夫する。
2	授業改善の取組 ○学習態度の確立 ○基礎学力の定着 ○学習能力の向上 ○評価方法・基準の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話など学習に必要なものを使ってしまうたり、チャイム着席ができないなど、積極的に授業に参加できない生徒がいる。 ・小、中学校のつまづきによって、基礎学力が不足し理解度に差がある。 ・学力や学習意欲が不足したり、指示されたことのできない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に学習態度の注意を喚起し、学習態度の確立を図る。 ・教員が早めに授業に行き、チャイム着席指導を行う。 ・職員研修会を実施し、モジュール制、評価方法の共通理解を図り、生徒を多面的に評価する。 ・教科会、研究授業を通して教材研究や指導方法等の工夫改善を図る。 ・生徒の基礎学力の向上を図る教育課程の編成を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組む生徒が前年度より増加する。(学習活動アンケート) ・生徒全員がチャイム着席できる。 ・各学期で成績優良者を前年度より増やす。また、年度末欠点保有者を前年度より減らす。 ・小中学校のつまづきを克服し、授業に対する満足度を上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に意欲的に取り組む姿勢ができていると回答した生徒は前年度比4%増加した。 ・概ねチャイム着席はできている。 ・1、3学年は成績優良者が増加し、成績不振者が前年度比10%減少した。 ・前年度とほぼ同様、66%の生徒が中学校と比べ勉強がわかると回答している。また、71%の生徒が学校生活に満足していると回答している。 	[B] <ul style="list-style-type: none"> ・「フレッシュ高校生社会体験活動プログラム」を活用し、目的意識や学習意欲の向上を図る。 ・学習アンケート結果の活用法を検討する。(アンケート実施時期や教科研修会の実施など) ・教育課程(習熟度別授業、少人数授業、総学の活用など)の改善を図る。 ・授業研究週間の具体的な実施方法を検討する。
3	夢を実現させる進路指導の推進 ○進路決定率の維持 ○進路相談・個別指導の充実 ○資格取得の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導(就職)に沿って活動した生徒は100%が決定している。 ・家庭の事情等で希望の進路に進めない生徒もいる。 ・個別指導の時間確保や様々な情報の共有化が進みつつある。 ・資格取得に対する意欲(自信)がやや不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・LHR、「総合的な学習の時間」の中で効果的に進路指導を行う。 ・「進路の手引」等を通して、生徒・HR担任へ進路情報・資料の提供に努める。 ・進路講演会、分野別説明会等進路行事を計画的に実施し、生徒の進路意識の高揚を図る。 ・就職支援アドバイザーを活用し、面接指導等をより充実させる。 ・補習や個別指導を通し、生徒の進路希望の実現を図る。 ・奨学金等の活用策を紹介する。 ・資格取得のための補習や指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望を100%実現する。 ・進路に関する講演会・研修会等の機会を設ける。 ・職場見学等、啓発的経験を得させる機会を設ける。 ・基礎的な学習の機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部を通して就職活動した生徒はほぼ100%が決定している。 ・四年制大学への進学者が前年度比90%増となった。 ・総合学習の時間やLHRで、進路別説明会や進路別見学会を実施した。 ・三学年担任団と進路指導部の連携はスムーズにできた。また進路指導部内では各学年の情報交換も多くなった。 ・二学年において職場・学校見学会を実施、外部講師による組別での講話の機会を作った。また放課後テーマ別の啓発的講習会を実施した。 	[A] <ul style="list-style-type: none"> ・様々な意識啓発の取組を進めているが、進路選択や進路決定に向けた活動に消極的な生徒がいる。 ・「フレッシュ高校生社会体験活動プログラム」を活用し、勤労観や職業観の育成を図る。 ・保護者の進路意識を高めるため、面談の時期や内容などを工夫する。 ・進路資料の整理と活用法を工夫する。 ・3年間を見通した継続的な進路補習に取り組み、進路希望の実現を図る。
4	開かれた学校づくりの推進 ○家庭・地域との連携 ○評価懇話会の活用 ○授業公開の工夫 ○学校施設の開放	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAとの校外生徒指導が図られている。 ・近隣中学校と生徒情報交換を実施している。 ・学校評議員兼教育懇話会を実施している。 ・年2回の授業公開にもかかわらず、保護者の参加が少ない。 ・施設利用希望者に対し、学校の活動に支障のない限り開放している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上尾養護学校との交流会や総合的な学習の時間を活用した校外交流体験を通じて地域との交流を深める。 ・中学校教員との情報交換により、中学校側の要望を適切に把握する。 ・PTAに働きかけ、PTA総会時の授業公開や授業公開週間(のべ10日間)、文化祭・体育祭等の学校行事への保護者の見学者を増やす。 ・学校通信、HP、学年通信等を活用し、保護者や地域に積極的に働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開への参加者数を前年度より増やす。 ・学校説明会への参加者を増やす。 ・授業公開等、保護者や地域に学校を開く機会を積極的に設ける。 ・学校からの情報発信(広報活動)を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会時の授業公開への保護者の出席はやや減少した。また、彩の国授業公開週間期間の参加者は前年度同様少なかった。 ・学校説明会の参加者数は前年度比減となった。 ・校外交流体験は、施設を学校近隣の1ヶ所に固定する一方、延べ訪問回数を増やすなど年間を通して交流する形態に変更した。 ・1、2学年の学年保護者懇談の参加者は前年度より増加した。 ・地元公民館のパソコン公開講座に、講師と会場を提供し、地域との連携を図った。 ・保護者宛のお知らせ文書は、生徒に配布する他に学校のホームページにも掲載した。また、ホームページの適宜更新を行った。 	[B] <ul style="list-style-type: none"> ・授業公開は、今後も保護者が出席しやすい実施方法(日時・回数等)を検討する。 ・学校だよりを近隣地域や中学校に配布、回覧するなど広報活動を工夫する。 ・ホームページのタイムリーな更新と充実を図る。

達成度 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(50%前後) D:まだ不十分(30%前後) E:目標、方策の見直し(20%以下)